

はじめまして、 おかえりなさい 三木町です。

町のシンボルは何と言っても東讃富士と呼ばれる「白山」。^{しらやま}
柔らかな線がおむすび型を描く白山は眺める人々の心を
穏やかにするような優しい山です。
四季の移り変わりに見せる山裾の風景は美しく、数多くの
史跡があり、今なお懐かしい農村風景が残ります。

ベッドタウンとして、高松市に隣接し、「ほどよい」暮らし
やすさと、「ほどよい」田舎の景色が残り、旧さと新しさが
ほどよく混在している町。

そんな環境でゆったりと暮らしているせいか、ここで出会
う人はみんな本当に心が穏やか。
自分の人生をしっかりと見つめつつも無理をせず、情報の
渦に惑わされることなく生きる姿はきっと、都会では忘れ
られた貴重なライフスタイルかもしれません。

人口約27,000人のこの町は、今ひそかに移住してくる
人々で賑いつつあります。
その理由はきっとこんなところにあるのかもしれませんが。
初めてこの町に来た人も人の優しさや温もりに気づくこ
とでしょう。

はじめまして、お帰りなさい。
心からホッとする三木町です。



三木町長
伊藤 良春



CONTENTS

第1章
LIVE ゆらゆら快適暮らし p.2

第2章
KIDS ゆったり子育て・教育 p.4

第3章
ENJOY 家族や友達同士で楽しむ p.8

第4章
WORK モォーっといろんな働き方 p.12

第5章
HISTORY 古くは律令時代に遡る p.16

第6章
FESTIVAL 年に一度のまんで願。 p.18



～希少糖が生まれ、研究が続く三木町～

香川大学農学部

いずもり けん
何森 健 特任教授・名誉教授

希少糖とは、自然界に微量しか存在しない単糖とその誘
導体と国際希少糖学会で定義されました。希少糖は自然
界に少ないので高価でもあり「研究する意味が無い」と
考えられていました。

平成3年に香川大学農学部の何森健名誉教授が、農学
部の食堂裏の土の中から希少糖を作るのに有効な酵素
をもつ微生物を偶然発見しました。

この酵素は安価で大量に存在する果糖を希少糖D-プシ
コースへ変える能力をもっていたのです。平成12年には
D-プシコースを大量に作る事が可能になりました。

微生物が分離された場所に「希少糖発祥の地」のモニュ
メントが作られています。微生物が分離された場所に記
念碑が建立されたのは、世界でも初めてです。香川大学
では学部を超えた研究が大きく進展しています。



平成25年に希少糖含有の「レアシュガー
スワイト」が発売され、現在この商品が
三木町のふるさと納税返礼品にもなって
います。

希少糖は機能性の甘味料としての価値
があるだけではありません。地域の活
性化にも一役かっているのです。

三木町の山南地区、小藁は人口160人
ほど、過疎化が進み幼小中学校が廃
校となりました。その跡地を利用した希少糖生産技術研
究所では、60代～80代の白衣を身にまとったお年寄り達
「小藁ズイナーズ」が、ピンセットとシャーレを手に、ズイナ
の組織培養を行っています。



「小藁ズイナーズの作っているズイナは『地球上で唯一希
少糖を含む植物です』。三木町らしい希少糖の木を活用
した地域の活性化です」と何森教授。

三木町で生まれた希少糖は世界へ広がっています。そし
て今後も研究拠点としての役割を果たし続けていきま
す。令和元年12月には国際希少糖学会が香川で開催さ
れます。

令和元年の瀬戸芸にも希少糖が参加します。